

Asia Indicators

発表日:2023年9月7日(木)

オーストラリア:PMI(23年8月)

～製造業もサービス業も引き続き縮小、中国経済の減速次第では業況感が一段と悪化する可能性も～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 阿原 健一郎(Tel:050-5470-4868)

8月のオーストラリア総合PMIは48.0と引き続き節目の50を下回った。各項目をみると、製造業PMIが49.6(7月49.6)、サービス業PMIが47.8(7月47.9)といずれも50を下回り、縮小している(図表1)。

オーストラリアの製造業は、グローバルな製造業の業況感が悪化するもとの、引き続き縮小した。製造業PMIについて構成項目を確認すると、新規受注指数、生産指数、原材料在庫指数が引き続き50を下回って推移しており、いずれも縮小ペースは横ばいないし幾分加速した。サプライヤー納期指数も引き続き50を下回り、縮小ペースは加速した。供給要因と考えられるサプライヤー納期指数の縮小が、上記の3つの指数の縮小を相殺したことで、ヘッドラインの縮小ペースが維持されており、業況感が底を打っているわけではない。ただし、雇用指数は、景気減速にもかかわらず、労働市場の逼迫を背景に、引き続き50を上回っており、雇用が拡大を続けていることを示している(図表2)。

オーストラリアのサービス業は、既往の金融引き締めの効果もあり、引き続き縮小した。総合CPIの伸びは鈍化してきているものの、サービス価格が高止まりしていることに加え、住宅ローン金利等の上昇により生活コストが増加しており、外食産業等のサービス業が縮小しているとみられる。サービス業PMIについて各項目を確認すると、新規受注指数が50を下回り、縮小に転じた。既存事業だけでなく、新規事業数も減少傾向にあるとみられる。雇用指数、価格指数は引き続き50を上回り推移している(図表3)。

先行きは、製造業では、新規受注が引き続き縮小していることから、縮小傾向が続くとみられる。8月の製造業PMIの縮小ペースが横ばいで推移しているのは、上述の通り、サプライヤー納期指数の縮小が新規受注指数等の縮小を相殺したためであり、業況感が底を打ったとは言い難い。サービス業は、次月以降も縮小傾向が続くと予想される。9月5日にRBAが3会合連続の政策金利の据え置きを決定(4.10%)しているが、インフレ率が高止まりするもとの生活コストの増加が家計を圧迫している状況に変わりはなく、業況感の改善は難しいだろう。また、足もとの不動産市場を中心とした中国経済の不透明感が高まっている。中国経済の想定以上の減速が見込まれる場合は、製造業、サービス業、いずれも業況感が一段と悪化する可能性がある。

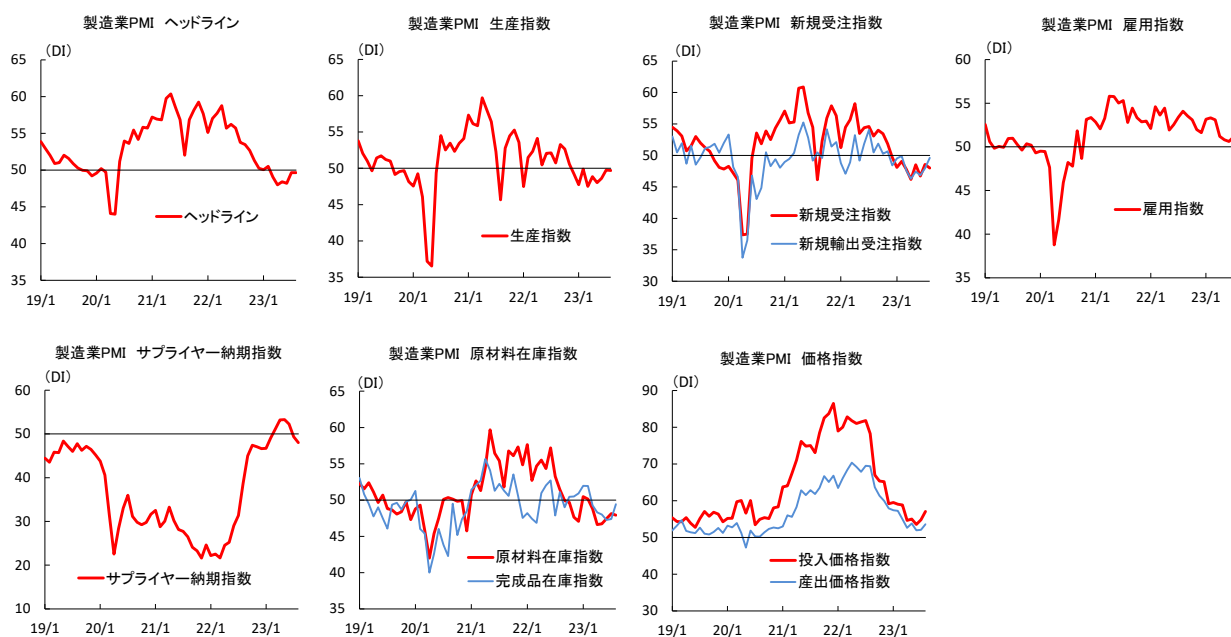


【図表1】オーストラリアのPMI

	四半期				月次			
	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/5月	23/6月	23/7月	23/8月
総合PMI	48.4	49.2	51.6	48.1	51.6	50.1	48.2	48.0
製造業PMI	51.4	49.9	48.2	49.6	48.4	48.2	49.6	49.6
サービス業PMI	48.1	49.3	52.0	47.8	52.1	50.3	47.9	47.8

(出所) S&P Global

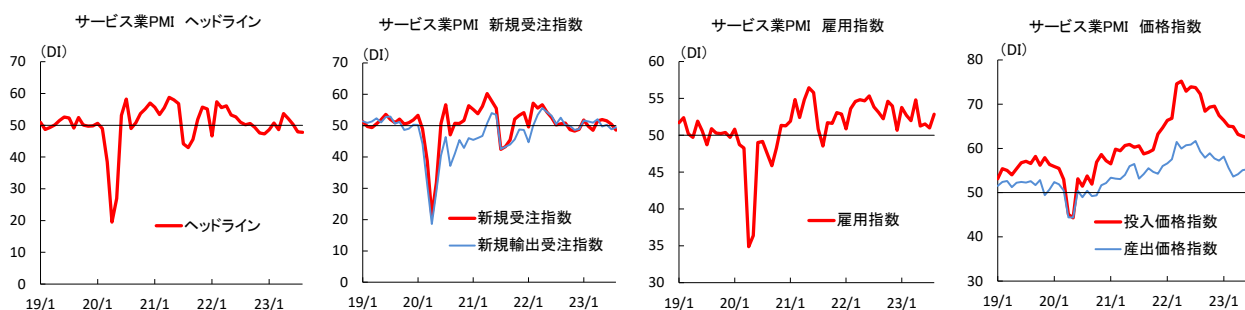
【図表2】製造業PMI



(注)直近はいずれも8月。

(出所) S&P Global

【図表3】サービス業PMI



(注)直近はいずれも8月。

(出所) S&P Global

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。